# 段階的に発表する防災気象情報の活用例

| 気象状況 | 気象庁等の情報 | | | | 市町村の対応 | 住民が取るべき行動 | 警戒レベル |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大雨の数日～約１日前 | 早期注意情報（警報級の可能性） | | | | • 心構えを一段高める<br>• 職員の連絡体制を確認 | 災害への心構えを高める | 1 |
| 大雨の半日～数時間前 | 大雨注意報<br>洪水注意報 | 高潮注意報 | キキクル（危険度分布）<br>注意（注意報級） | 氾濫注意情報 | 第１次防災体制（連絡要員を配置）<br>第２次防災体制（高齢者等避難の発令を判断できる体制） | 自らの避難行動を確認<br>•ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。 | 2 |
| | 大雨警報に切り替える可能性が高い注意報 | | | | | | |
| 大雨の数時間～2時間程度前 | 大雨警報※1<br>洪水警報 | 高潮警報に切り替える可能性が高い注意報 | 警戒（警報級） | 氾濫警戒情報 | 高齢者等避難<br>第３次防災体制（避難指示の発令を判断できる体制） | 危険な場所から高齢者等は避難<br>• 高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。 | 3 |
| | 土砂災害警戒情報 | 高潮警報<br>高潮特別警報 | 非常に危険<br>極めて危険※2 | 氾濫危険情報 | 避難指示<br>第４次防災体制（災害対策本部設置） | 危険な場所から全員避難<br>• 過去の重大な災害の発生時に匹敵する状況。この段階までに避難を完了しておく。<br>• 台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。 | 4 |
| | ＜警戒レベル４までに必ず避難！＞ | | | | | | |
| 数十年に一度の大雨 | 大雨特別警報 | | | 氾濫発生情報 | 緊急安全確保<br>※必ず発令される情報ではない | 命の危険　直ちに安全確保！<br>• すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。 | 5 |

※1　夜間～翌日早朝に大雨警報（土砂災害）に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3（高齢者等避難）に相当します。
　2　「極めて危険」（濃い紫）が出現するまでに避難を完了しておくことが重要であり、「濃い紫」は大雨特別警報が発表された際の警戒レベル5緊急安全確保の発令対象区域の絞り込みに活用することが考えられます。

「避難情報に関するガイドライン」（内閣府）に基づき気象庁において作成